

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員間で共有できるように職場研修等において、理念と事業計画を共有し、ミーティング等で話し合いの時間をもち実践に繋げている	理念と事業計画については、管理者、職員とも共有できるよう職場研修を実施しています。この研修は、年1回事業所の代表者が講師となり当日在宅の職員も参加できるようオンラインで行い、多数の職員が参加しています。結果は記録して共有しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で利用者と地域との交流の場を増やす事は少なかったが、開設当初より関係を築いてきた近隣のボランティアや町会との関係が途切れないよう運営推進会議の後や散歩時に交流を続けている	コロナ禍の影響は大きく地域の方との繋がりを広げるまでには至りませんでした。それでも運営推進会議や散歩の折には近くのボランティアや町会の方との交流を途切れないようにしています。	コロナの推移を見ながら、かつてのように自治会等の行事(餅つき、盆踊り、お祭り等)など外部との交流を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の代表が松戸市の認知症研究会の委員として活動しており地域活動に積極的に活動している。近年は他団体でも市民向け研修で地域の方々に向けた認知症研修も行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在入室制限が続くご家族はもちろんに会議を通して行事や皆様の様子が伝えられる機会になり安心されている。防災に関しては備品の確認と避難訓練の実際をお伝えし、他のGHと滑り台の訓練について確認し計画に盛り込むことにした。	家族代表、地域住民、包括、他のGH等が参加して対面で実施しています。定例の報告事項以外に毎回テーマを決め、貴重な意見を頂いています。備付けの滑り台を利用した避難訓練を計画に加えました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護業界の人材不足の現状や、利用者の重度化、看取りに関し情報提供をしている。また介護職員・市民向けの研修などについては連携協力している。	日常の業務については日頃連携をとっています。また、代表者は市内の高齢者介護の各種の役職に就いていて、市内の介護連やGH協議会での各種研修の講師としても活動しています。生保受給の利用者はいません。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から玄関の施錠はせずに入出入りは自由な環境を実践している。日々のケアでは活動の制限をしないよう取り組んでいる。虐待委員会を中心に年間のホーム内研修において身体拘束・スピーチロックについて等行っている。	毎月1回行う職場研修の一環として年2回身体拘束等の研修(在宅も参加するオンライン)を実施しています。「ちよと待つて」という言葉かけも、その理由、待たせる時間、使用頻度等の要素によりスピーチロックになり得ることなどを研修しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてもホーム内研修を行い不適切なケアについて学び、虐待委員会からの提案で実践で注意していけるように目標を立て取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について理解できるよう研修を行い必要に応じた支援が行えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約前に十分な説明を行った後に契約を行っている。解約や改定の際にも十分に説明を行い理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会やケアプラン更新時や運営推進会議の際に意見を頂き運営に反映させている。現在はキーボードの演奏をして歌を楽しんだり、編み物をしてご家族にプレゼントしたり、美容室に行かれたり、様々なご要望に応えている。	家族からは左欄記載の機会を捉えいろいろ意見を聞いています。その結果がキーボードの演奏であり、編み物をしてのプレゼントです。これらはいずれも家族からの申し出により、利用者が自ら持てる力を発揮した例として挙げられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出された意見に関してはミーティングの場で各職員に意見を求め反映できるよう取り組んでいる。勤務時間の調整により働きやすい環境を作っている。また、LINEグループにて意見交換がしやすくなった。	このミーティングは、日常のケア、利用者の情報など多彩な事項について中身の濃い意見交換をしています。結果は当番が記録し共有します。個々の職員からの意見、希望等は定期的な場ではなく、随時自由に意見、希望を話せる環境を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤職員にはやりがいや向上心を持って働けるよう自己評価、目標設置を行っている。資格取得・資格更新のために有休利用し勤務調整を行っている。勤続表彰制度の実施、給与改善や労働時間に配慮し少しでも働きやすい環境の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の自己評価表を基に面談等で目標の設定を行い、資質の向上につながるようにした。今年度のホーム内研修は常勤職員とパートでも介護福祉士の資格を持っている者に研修担当を行ってもらった		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会の役員を引き受け、他の事業者とのネットワークの構築に関わり、管理者交流や勉強会等の活動を通じて、サービスの質の向上が図れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や担当のケアマネージャーから情報収集し、家庭に訪問した際やホーム見学の際に本人の思いや困りごとに耳を傾け安心して生活を行っていただけるよう関係作りに努めている。また、まだ出来る事・得意な事を取り入れ他者との交流を深めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が一番に困っていること、ホームに入居することへの不安が少しでも軽減できるよう要望を聞きながら、ご本人が安心され笑顔になっていく様子を見て頂く事が安心に繋がり、ご様子を出るだけ伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居への不安はどちらにもあると感じ、まずはご本人と多く関り、人がいる事の安心感が伝わるようにする。また健康面でも早期から看護師と協働で観察し健康管理に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者のできること、できないことの見極めを行い、生活の中で活動の場を多く設けており、キーボードの演奏・編み物・掃除等、各入居者が得意な事は教えて頂きながらお互いに寄り添い生活して行けるよう関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで離れて暮らしていても家族との絆を大切に保てるよう電話や絵手紙での交流を支援している。面会制限を実施しているが顔を合わせて頂けるよう感染対策を行いながら面会を可能にしている。来所時にはご家族との交流をとるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策を行い家族にも協力を得ながら美容室に行ったり自宅に行かれたり買い物に行くなど在宅の頃の関係が途切れないように支援を行っている。法事に行かれたこともある。	馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援をしています。感染症の状況をみながら家族の協力を得て、自宅や法事に参列した例がありません。また、美容院や買い物にも行きますが、この際は、職員が同行しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、お手伝いや散歩の場面を通し関わり合えるよう支援を行っている。また、難聴の方にも会話に入れる様に気を配ったり、車椅子の方の移動に手を貸すなどお互いに気遣い、様々な場面で支え合う様子がみられている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後にも連絡を取り合い様子を伺ったり、相談事や必要な支援は応じるよう努めている。お電話や年賀状を頂く事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人思いや意向を把握し出来る限り実現できるように検討し実施している。コロナ禍で思うように外出が出来なくなったが、自宅に帰りたいという本人の意向に合わせてご家族にも協力を得ながら自宅への外出支援を行っている。	コロナ禍もあり、本人の思いに沿った外出ができない状態が続いていたが、それでも家族の協力を得て自宅への外出を実現した例があります。一方、意向の表現の不得手の方は、常時観察することや家族への意見聴取をすることにより思いや意向の把握をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、担当のケアマネージャーから情報を得て、読書の時間、ピアノの時間、好きなテレビを見る等、ご本人の生活リズムや楽しみを取り入れている。入居後も様々な場面で本人から聞き取りを行い把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	イベント食づくりや日々のお手伝いなど皆様が参加できることを取り入れ現状の把握に努めいま出来る事が継続出来るよう支援を行っている。会話を通し精神面での変化にも留意し変化がみられた場合には一日の過ごし方を工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケース会議を行い、ケアプランに沿って状況確認をし、参加者からの意見やアイデアを出し合い日々の細やかなケアに繋げている。ご家族、担当医や歯科医師、歯科衛生士、看護師の意見も反映して介護計画を作成している	新たな入居者の場合、家族、関係者の意見等を聞き、モニタリングを行いケアプランを立てます。その後も経過、状況を確認し、家族、職員、医療従事者の意見も出し合い、新たなプランを作成しています。毎月ケース会議で検討し日々のケアに繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はipadにて項目別に記録に残したり申し送りの欄に登録し職員が目を通しやすくし、職員間で共有できるようにしている。実践方法の見直しや修正されたものは処遇改善用紙に記録し共有、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズに対応できるように心掛けている。コロナ禍で制限がある中でも、できるだけ柔軟に応じられるよう取り組み、ご家族からの介護相談や家庭内の虐待案件や看取りとお見送りお別れの時まで対応を続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症対策で制限が続いている中、外食は難しいが少しでも外出・買い物を楽しんで頂けるようにショッピングモールに出かける事が出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からのかかりつけ医にはご家族に協力を得ながら通院を行っている。通院が難しくなると訪問診療に切り替えて頂き出来るだけかかりつけ医の継続を考えるが、かかりつけ医の訪問診療が難しいときはご家族と相談の上担当医師を決めている。担当医とは事業所から情報提供を行ったり、担当医から情報を受けながら適切な医療が受けられるよう支援を行っている	かかりつけ医や訪問診療等での診察内容、検査結果、処方、次回の受診日等については個人ファイルに纏め保管しています。診察に家族が同行できない場合、柔軟に職員が対応しています。また実際は薬ポケットを利用して与薬を行い、薬局と連携しながら残薬管理をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師が配置されている為、昼夜問わず情報を伝え相談しやすい環境にある。看護師への報告、相談が直ぐに行えるため指示が早く異常の早期発見にも繋がっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合には情報提供を行う他、必要に応じご家族の意向も医療関係者に伝えている。退院後の受け入れに関して主治医、看護師と連携を取りながら早期に退院出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時点で看取りに関する指針を説明している。利用者の状態を医師に確認し、家族と話し合いを行い方針の共有のため確認書を取り交わしている。コロナ禍でも感染症対策を講じながら医師、家族と協力し居室での面会と看取りを行っている	体調管理データを電子入力して職員の記録にかかる負担も軽減しています。看取りに関して説明の上、同意書と経過に応じた確認書をかわします。重症化によるケースカンファレンスの結果、計画を見直して追加変更しています。職員は準備されたターミナルケア研修の資料を閲覧できます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて研修を行っている。急変や事故発生に備え連絡網や緊急対応マニュアルを作成し事務所内の目に付く場所に掲示し直ぐに対応出来るようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の避難も想定した避難訓練を実施している。地域の方には避難の協力を得る他、事業所として地域に協力できるよう必要に応じホームを避難場所として使用していただくよう伝えている。消火器訓練を行い、今後は滑り台からの避難訓練を予定している。	避難訓練は年2回(10月、3月)消防署による消火器訓練の他、今後は危険を考慮しながら職員による滑り台からの訓練も予定しています。地震時見回りや声掛けで不安なく過ごせるよう対応しています。また地域住民の避難場所として食糧や水分提供を提案し協力体制を構築しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の研修とスピーチロックに関する研修を通し、人格の尊重と、プライバシーを損ねない声掛けや対応ができるよう努めている。虐待防止委員会の取り組みから、接遇を見直し職員同士がその場で注意ができる環境を整えている	虐待防止、プライバシー保護、身体拘束、ハラスメント等の研修をオンラインで計画的に実施し、欠席者には資料を配布します。またケアの際の言葉使いや態度に関して意識が高まり、相互に振り返り改善点を促しながら実践に活かしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の些細な場面においても言葉を聞くようにし、思いや希望を聞き取り、出来る事への選択肢を探し、自己決定できるよう働きかけを行い、職員が指示するのではなく利用者本人に選んで決めてもらう場面を多く作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活動の提案は行方が無理強いはせず一人ひとりのペースで過ごす時間を大切にしている。現在の入居者は読書、編み物、鉢植えの手入れ、散歩、調理のお手伝い等本人の希望にそって過ごせるよう支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には本人に洋服を選んでもらったり、行事に合わせたお化粧品や好きな衣装を選んでもらうようにしている。本人が長年使用している化粧品等が継続して使用できるようご家族にも協力を得ている。美容室へも行かれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	視力の低下がみられる方には見やすく・手に取りやすく・食べやすいように食器を選ぶようにしている。毎月のイベント食では、利用者の要望や好みを聞き、季節を感じる食事を利用者と一緒に作り楽しんでもらえるよう努めている	業務委託でなく、職員が利用者の好みに応じた調理をしています。季節の食材を使用したイベント食や、各々の誕生日にケーキを提供し、職員も一緒に楽しんで食べています。片付けも男女の区別なく自然にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事をチェック表に記録し、必要量が確保できるよう努めている。習慣と嗜好に合わせ好きな飲み物を提供し、嚥下障害が進む方にも好きな物でも飲みやすく工夫して支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。歯科衛生士、看護師に指導を受け一人ひとりの状態に合わせて歯間ブラシ、口腔スポンジや口腔洗浄剤、ジェル等を使用し口腔内が清潔に保てるようケアを行っている。義歯の装着や洗浄も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めトイレでの排泄や失禁を少なくできるような声掛け・体操などを取り入れた支援に取り組んでいる。車いすの方もトイレでの排尿を勧め残尿を少なくし、膀胱炎などの予防に繋げている。	おむつ利用者は無く、布やリハビリパンツを使用しています。排泄チェック表による間隔の把握や適時誘導により失禁が減少した例もあります。朝30分程度のラジオ体操参加率は高く、その後の日課である散歩や外出で便秘予防に繋げています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防や及ぼす影響を理解し、毎日の体操や散歩を行い、個々に応じて乳酸飲料や牛乳を飲んでいただいている。排泄リズムの把握に努め必要に応じ運動量や水分量を増やし自然な排泄ができるよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の順番や時間は本人に確認している。入浴を楽しんで頂けるよう好みの入浴剤やシャンプーを使用している。拒否のある方には好きな音楽や気分が良い時や行動している流れを見ながら声掛けをし、楽しんで入浴して頂けるよう支援している	基本的には週2～3回の個別入浴です。「面倒くさい」という理由等で拒否した場合は、無理強いせずタイミングや日程をずらし柔軟に対応しています。運動機能の低下した方には入浴用車椅子を使用し爽快感が増すよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝される時間はそれぞれであり要望に応じ、休息できるよう支援している。寒い時期には湯たんぽや電気マット等を使用し安心して気持ちよく休めるよう支援している。また好きなテレビを見たり、楽しい会話をたくさんして休まれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、薬剤師、看護師、介護職員で情報を共有し、服薬の支援と症状の変化に努めている。状態の変化に合わせて内服薬の調整や量が最小限になるよう主治医に相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書や草花の手入れ、編み物等の趣味が継続できるようご家族にも協力してもらい環境を整えている。キーボードを持ってこられた方が伴奏され楽しい歌の時間ができ、イベントでも披露され満足感が得られるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	花見やドライブに出掛けたり、近隣への散歩、外気浴は日常的に行っている。駐車場であればゴミ捨て・新聞受け・花の水やり・履き掃除、洗濯物干し等活動されている。	日常的に職員と買い物に出かけたり、駐車場で見守られながら作業ができています。3月には地域で餅つきがありボランティアと協力して参加予定です。また地域の人や職員の旅行計画がある場合には、声掛けしながら本人の希望を知り、家族に情報提供して外出支援に繋げています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の財布を事務所の金庫に預かり、外出する際は本人が所持したり、使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に合わせてご家族に電話をしたり、携帯電話を持っている方は使用できるよう充電や使用の際の支援を行っている。手紙や年賀状の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下は広くリビングは開放的で窓も多く大きいため木々や草花や夕日を見ながら季節を感じて頂いている。リビングに続くキッチンがオープンになっており調理している音やおいを感じられ、お手伝いもしやすい環境である。掲示物にも配慮し季節に応じた作品を飾っている。皆様に合わせてYouTubeやUSENを利用し音楽を流している。	リビングは明るく、利用者全員が集う共有空間で相互に挨拶をかわし語らえます。掲示物は職員担当者が企画し、利用者と共に楽しみながら手作りの力作や、四季折々の創作品は多彩さに溢れています。また利用者の好みや反応、活動状況に相応しい癒し系の音楽等を選曲し流しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファセットが置いてある空間や玄関脇にもソファを置き共有空間の中でも気の合う人と過ごしたり、一人で編み物や読書、うたた寝等をして過ごせる居場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人、家族と相談しながら自宅で使い慣れた家具や好きな色のカーテン等を持ち込んでいる。仏壇や家族との思い出の写真、手作りの作品等を飾り、好きな本やキーボードやテレビを置き本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。机では日記を書いたり、塗り絵をされている。	居室内は馴染みの写真や思い出の品を置き、家族や利用者間、職員とのコミュニケーションに活用されています。特段、持ち込みについて制限は設けず安全面で配慮を要しますが、個人の好みを良く尊重しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレの場所がわかるよう掲示している。外部に続く扉やドアには人感センサーを取り付け安全に配慮した環境作りを行っている。トイレには使用中のプレートをかけ入っていることが解りやすいようにしている。		